

# 薩摩半島から得られた九州沿岸初記録のオオカクレイワガニ (十脚目：短尾下目：イワガニ科)

是枝伶旺<sup>1</sup>・久木田直斗<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所

<sup>2</sup> 〒 899-4322 鹿児島県霧島市

## はじめに

オオカクレイワガニ *Geograpsus crinipes* (Dana, 1851) はインド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布し、国内においては主に奄美大島以南の琉球列島から記録されている陸生傾向が強い大型のカニであり、高潮線付近の沿岸域に生息する(酒井, 1976; 佐々木ほか, 2018; 豊田, 2019)。著者が薩摩半島沿岸で行う魚類相調査の過程で、1個体のオオカクレイワガニが採集された。薩摩半島産の個体は本種の九州沿岸からの初記録と考えられたため報告する。

## 材料と方法

採集調査は2025年6月28日に、南さつま市坊津町秋目の秋目漁港で夜間に行った。得られた標本は生鮮時の写真を撮影後、70%エタノールで固定した。標本の大きさは甲幅(CW)を、デジタルノギスを用いて0.1 mm単位で計測した。本研究に用いた観察標本およびカラー写真は鹿児島大学総合研究博物館(KAUM: The Kagoshima University Museum)に保管されている。

## 結果

イワガニ科 Grapsidae MacLeay, 1838

カクレイワガニ属 *Geograpsus* Stimpson, 1858

オオカクレイワガニ *Geograpsus crinipes* (Dana, 1851)

(Fig. 1)

**検討標本** 1個体. KAUM-AT. 3728, 雌, 甲幅49.6 mm, 鹿児島県南さつま市坊津町秋目 秋目漁港 (31°21'29"N, 130°11'57"E), たも網, 久木田直斗。

**同定** 検討標本は甲が縦扁した幅広い四角形であること, 甲背面はほぼ全域に横方向の複数の条があること, 額が甲幅の1/3より広いこと, 甲側縁が直線的で後方ほど幅広く, 眼後歯を含めて2歯をもつこと(眼後歯は内側へ向かい, 第2歯はやや小さい), 鉗脚長節前縁の板状部が顕著な鋸歯状であること(左4歯; 右8歯), および鉗脚掌節と腕節背面に複数の小棘があることが酒井(1976)の示した本種の形態的特徴に一致し, 本種に同定された。

**分布** 本種はインド・太平洋に分布し(酒井, 1976), 日本国内では伊豆諸島(伊豆大島: 鈴木・倉田, 1967), 小笠原諸島, および奄美大島以南の琉球列島から記録がある(酒井, 1976; 藤田ほか, 2009; 外山, 2018; 豊田, 2019; 藤田・鈴木, 2020)。本研究により新たに九州(薩摩半島)から記録された。

**採集時の状況** 薩摩半島産の標本は秋目漁港内における水際付近の岸壁に付着していた。付近を探索したが追加個体は観察されなかった。

**備考** 酒井(1976)は本種の分布を奄美諸島, 石垣島, および北大東島としており, Sakai (1939)は北大東島産の標本を報告した。また, Sakai

Koreeda, R. and N. Kukita. 2025. First Kyushu record of *Geograpsus crinipes* (Decapoda: Brachyura: Grapsidae) from the Satsuma Peninsula, Kagoshima, Kyushu, Japan.. *Nature of Kagoshima* 52: 67–69.

✉ RK: The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24, Korimoto, Kagoshima, 890-0065, Japan (e-mail: k4920583@kadai.jp).

Received: 8 July 2025; published online: 25 July 2025; [https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_052/052-017.pdf](https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-017.pdf)

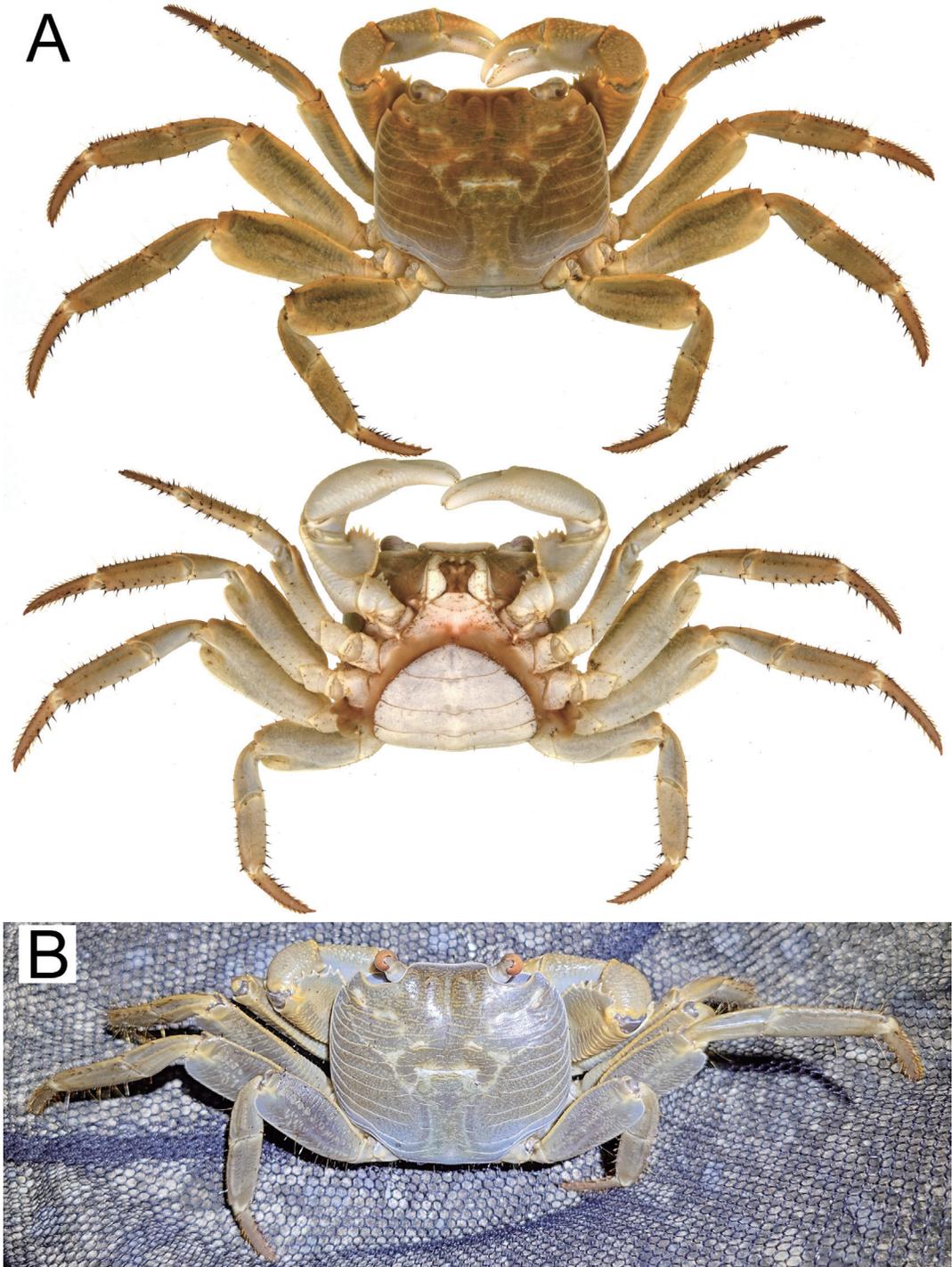


Fig. 1. Fresh (A) and live (B) specimen of *Geograpsus crinipes* (KAUM-AT. 3728, CW 49.6 mm) from Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Kyushu, Japan.

(1939) が本種のシノニムリストに含めた Urita (1926) は、本種の国内における当時の記録を？と

したが、奄美大島（原文では Ohsima Is., Ohsumi）から本種が採集されたことを報告した。したがっ

て、酒井（1976）が出版された当時、鹿児島県からは奄美大島からのみ本種が記録されていたと考えられる。以降、鹿児島県内では主に奄美大島からの記録があり（例えば、藤田ほか，2009；外山，2018），豊田（2019）は徳之島から、藤田・鈴木（2020）は与論島からも本種を報告している。

本種は高潮線や飛沫帯の障害物下などを生息地としている（佐々木ほか，2019）。港内の岸壁には部分的に割れ目などがあるが、本種の生息に適するとは考えにくい。港外の南側には岩礁性の海岸が連続しているため、本個体は偶発的に港内へ侵入してきたところを採集された可能性がある。秋目港南側の海岸で採集を行ったことはないものの、著者らが長期にわたりおこなっている鹿児島県本土沿岸における生物調査において、これまでに本種が観察されたことはなかった。薩摩半島産の個体は甲幅 40 mm を越える大型個体であり、越冬を経験した個体の可能性が示唆される。

本種の国内における記録は分布の項に記述したとおりであり、薩摩半島産の標本が本種の九州沿岸からの初記録と考えられる。

## 謝 辞

本報を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の古橋龍星氏、金

井聖弥氏、および前田知範氏には採集調査にご協力頂いた。株式会社かんきょう社の前之園唯史氏、琉球大学の佐藤大義氏、および東京海洋大学の山下龍之丞氏には文献調査にご協力頂いた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の本村浩之博士と大西聡子氏には標本の登録にご協力頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。本研究の一部は JSPS 研究奨励費（DC2: 24KJ1838）の援助を受けた

## 引用文献

- 藤田喜久・鈴木廣志・松岡卓司・永江万作・組坂遵治. 2009. 琉球列島の飛沫転石帯に生息する十脚甲殻類, pp. 35–66. 安村茂樹（編）WWF ジャパン 南西諸島生物多様性評価プロジェクト フィールド調査報告書. 世界自然保護基金ジャパン, 東京.
- 藤田喜久・鈴木廣志. 2020. 与論島のアンキアライン洞窟から採集されたドウクツベンケイガニ *Karstarma boholano* (Ng, 2002) (十脚目:短尾下目:ベンケイガニ科) の記録. *Nature of Kagoshima*, 47: 87–89.
- 酒井 恒. 1976. 日本産蟹類. 講談社, 東京. 461 pp.
- 佐々木哲朗・山田鉄也・向 顕嗣・堀越 宙・飴田洋祐・関口 匠. 2018. 南硫黄島の陸生大型甲殻類, 特にその垂直分布について. *小笠原研究*, 44: 305–314.
- 外山真樹. 2018. 三浦知之氏寄贈甲殻類標本目録. 宮崎県総合博物館研究紀要, 38: 5–72.
- 豊田幸詞. 2019. 日本産淡水性・汽水性 エビ・カニ図鑑. 緑書房, 東京. 398 pp.
- Urita, T. 1926. A check list of Brachyura found in Kagosima Prefecture, Japan. 40 pp.